

3 月中旬は、日中の最高気温が非常に高く（平年比+4.9℃）推移したため、発芽等の初期生育は昨年より 10 日程度進んでいる状況です。ただし、過去 2 ヶ年のように、4 月が極端な低温で推移すると、開花等が遅れる可能性があります。よって、園地の生育をよく見極め、休眠期の薬剤散布から日数が空けすぎないように薬剤散布に進めて下さい。

発芽期から 6 月上旬までは、黒星病・黒点病等の重要防除期間となります。今後、低温による生育遅れや連続した降雨で、開花期までの薬剤散布間隔が空いてしまうと病害の一次感染が拡大し、後の果実感染被害の要因となります。越冬病菌からの一次感染を予防するため下記の内容を参考して防除を実施して下さい。（不明な点は営農センターまでお問い合わせください）

りんご

*発芽状況

品 種	場 所	平年	H22	H23	H24	H25
ふ じ	平 岡	4/4	4/1	4/13	4/13	4/2
エゾノコリンゴ	果樹試	2/14	2/1	2/9	2/28	2/14

（注目）

発芽等の初期生育の段階では、昨年より 10 日程度進んでいる状況です。よって、薬剤散布や管理作業は昨年より 10 日程度早く進めるように計画しましょう！

【発芽 10 日後の防除】

- ◆ 防除の際、隣接地がアスパラガスの場合は事前に園主へ連絡してください。
- ◆ 収穫中の作物等への飛散に充分注意してください。



散布時期：4 月 10～15 日頃 *②参照

散布日 月 日
散布量 リットル

散布薬剤：水 1 0 0 リットル
展着剤 1 0 ml
トレノックスフロアブル 2 0 0 ml *①、③参照
対象病虫害：黒星病・黒点病・赤星病・褐斑病・斑点落葉病
10 アール当り散布量： 350 リットル *園の隅々までタツプリかかるようにする

【注意事項】*必ずお読みください。

- ① 毎年、黒星病・黒点病の発生が多い園は、越冬病菌から一次感染を抑えるため必ず散布する。
- ② 低温により生育が遅れていても、左記の散布時期を目安に遅れずに実施すること。
- ③ 昨年度うどんこ病発生園で、高温乾燥が続く場合はコロナフロアブル 400 倍（4 回以内）を加用する。（発芽 10 日後厳守すること）

【黒星病の発生生態と生活史】（長野県果樹指導指針より）

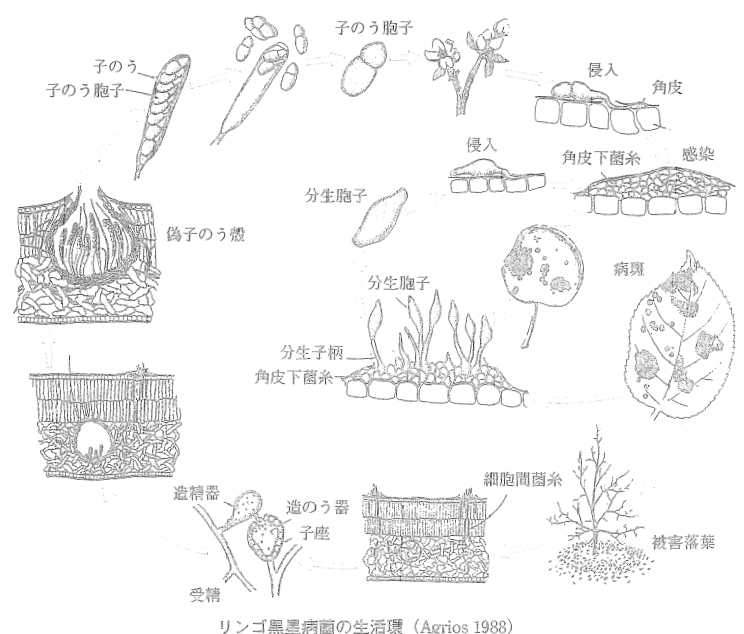
① 発生生態

本病菌は被害落葉・芽りん片・枝病斑で越冬するが、量的に重要なのは被害落葉である。被害落葉上では冬期間に偽子のう殻が形成され、早春に成熟し発芽期頃から子のう胞子が飛散して感染が始まる。子のう胞子の感染適温は 15～20℃で、この温度での潜伏期間は約 10 日である。

一次感染は開花前後がピークとなり落花 20 日後頃まで続き、その後は病斑上に形成された分生胞子により二次感染が続く。菌糸の発育適温は 16～24℃で、分生胞子の発芽適温は 15～25℃である。

感染の条件として降雨と密接な関係があり、雨が多い時また葉がぬれている時間が長い時に感染しやすい。温度 10～20℃で感染しやすく 1～2 週間で病斑が現われる。

② 生活史



- ◆ 次回（開花直前）の薬剤散布予定
ふじの開花直前：4/22～28 頃